

子どもたちに 核兵器のない世界を

核兵器廃絶めざす
全教メールニュース
第39号 2010.6.25.

原水爆禁止世界大会にすべての組織から代表団を！ 青年の派遣を！ ニューヨークからキム・アレン先生が、 「教職員平和のつどい」に参加します

原水爆禁止世界大会（広島、8月4日～6日）の真ん中の5日に、恒例の「教職員平和のつどい」を全教と教組共闘の呼びかけでおこないます。世界大会参加の感想を交流するとともに、被爆の実相を継承し、平和教育実践に学びつどいで。学習の後は、ビールで乾杯、交流を深めましょう。現地の全教広島の組合員の皆さんに用意していただく、おいしいお好み焼きも楽しみです。

アメリカと広島の平和教育に学び交流

NPTニューヨーク行動の際に、ニューヨーク・セントルークススクール（私立中学校）でアニメ「アンゼラスの鐘」を見てディスカッションをおこなうという授業に、アニメ監督の有原誠治さんと全教から2人の青年（愛知高教組）が参加しました。この授業をおこなったキム・アレン先生が卒業生と共に、8月の広島に来られます。有原さんのご尽力で、教職員平和のつどいに参加していただけることになりました。今年は、アメリカと広島の平和教育に学び、核兵器廃絶の願いを交流し深めることができる教職員平和のつどいです。

教職員をつどい in 広島 プログラム

8月5日 17:00～19:30

会場：広島ロードビル

全教広島からあいさつ

アメリカと広島の平和教育から学ぼう

* 記念品贈呈、記念写真

乾杯・交流

大会参加の感想やとりくみの交流

閉会あいさつ

セントルークス・スクール訪問記

愛知高教組・菅野瑞己さんの報告より

5月4日、セントルークススクールで行われた平和交流は、長崎の原爆投下をアニメ化した「アンゼラスの鐘」を鑑賞し、被爆者の語りを聞き、それらについて考え・話し合う授業への参加という形で行われた。この企画は、再検討会議にあわせて卒業生や保護者が上映を学校に働きかけ、それに応える形でキム・アレンさんが、監督の有原誠治氏に呼びかけて実現した。冒頭で、アレンさんは目的を次のように語った。

「このイベントは、第二次大戦への批判でもなく、日本軍隊への批判でもなく、原爆投下に対する批判でもなく、一市民たちが受けた被害を共に考え、今後の平和な世界の存続につなげていくものためのものです」

作品について、私たちはグループごとに討論を行った。セントルークスの生徒たちのグループは、真剣な面持ちでゆっくりと考えをまとめながら互いに思いを述べあっているように見えた。

全体の討論では「原爆の事は知っていたがこんな恐ろしさを持っていたとは知らなかった」、「知るために、アニメという手段が有効であり、現実を受け入れやすい」ということなどが発表された。しかし、現実の被爆は、グロテスクで凄惨なものであり、そのことを私たちは知っていかなければならない、というのもまた事実である。今回は、その残酷な現実を、お二人の被爆者の方々が伝えてくださった。

日本の授業とは違う！と思ったのは、その後の生徒たちの行動だ。代表者が前へ出て、「今私たちができる事を行動にしなければならない。原爆を世界からなくしたいという今の思いを手紙に書いて、ニューヨーク選出上院議員に送ろう」と述べ、すぐに生徒と保護者たちは手紙を書き始めた。日本の生徒たちも、遅れながらも、その中に入って手紙を書き出した。考え、自分の信ずる意見を主張し、そして行動する、アメリカ人の真骨頂を見せられた思いがした。